



中津宮・七夕祭斎行

「むなかた大島七夕祭り」も併せて催行

八月七日、七夕伝説発祥の地といわれる大島・中津宮で七夕祭が斎行された。これに併せ、本年も大島地区コミュニティ、宗像観光協会大島支部、宗像漁協大島支所、宗像市、宗像市大島行政センターで構成される「元気な島作り事業推進協議会」(会長 板矢英之氏)とのタイアップにより「むなかた大島七夕祭り」を催行し、満天の星を仰ぎロマンに溢れた祭りとなった。

七夕祭当日は、早朝より沖・中両宮奉賛会、翼賛会、敬神婦人部、元気な島作り事業推進協議会他(島内各種団体)の御奉仕により七夕装飾が行なわれ、中津宮周囲・海水浴場・ターミナルへと道路沿いには、七夕



人を守る。



夢をつなぐ。



街を見つめる。



暮らしを応援する。

実業を支える。麻生グループ。
ASO GROUP
WE DELIVER THE BEST

安心をカタチに、生きがいをデザインする麻生グループ

<http://www.aso-group.jp/>



飾り一色で彩られ、午後六時頃には浴衣姿の島民や、島外からの参拜者が続々と中津宮へ参集した。境内では、神賑わいとして「イカ・タコ串焼き」、「ヨーヨー釣り」、「かき氷」、「ビール販売」、「大島名産品の販売」等が開催されると共

に、境内及び道路沿いに竹灯が灯され、幻想的な空気に境内は包まれた。

また午後五時五〇分からは照海殿・港湾緑地公園を会場に、元氣な島作り事業推進協議会主催で福岡教育大学の平井正則名誉教授によ

る七夕星空をテーマにした楽しいクイズ大会、落語家の粗忽家酔書氏による七夕寄席、九州管楽合奏団メンバーの熊川亜希さんと市川雅一さんによるユーフォニアの演奏が催され観客を魅了した。

午後八時、境内を流



れる清流「天の川」を挟んで鎮座する「牽牛社」「織女社」の御前で、厳肅に七夕祭を斎行、参列者はそれぞれ祈りを込めて玉串を捧げた。

祭典後に奉納される恒例の七夕踊りも参加者が多く、大島居を二重の輪で囲んで行なわれ島民、来島者、子供、大人も皆で七夕の夜を過ごした。

午後九時三〇分、大島港より臨時渡船が出港、満天の星空のもと来島者は帰路につき、今年の七夕祭りを無事に終了した。



【授与品と装束】



京都奉製株式会社

本社営業所 京都市左京区静海市原町1291-25

電話 (075) 741-3221

フリーダイヤル 0120-164124

イロヨイニシキ

福岡営業所 福岡市博多区板付5-3-11

電話 (092) 592-3015





新旧宮司ら関係者が見守る中、捺印される西高辻庁長

宮司引継式

神島宮司から高向新宮司へ
事務の引き継ぎ行われる

八月七日正午より、当大社勅使館において神島前宮司から高向新宮司への事務引継ぎが行なわれた。

福岡県神社庁々長西高辻信良氏（太宰府天満宮宮司）、同副庁長波多野盾夫氏（仲宿八幡宮宮司）、阿部憲之介氏（榑田神社宮司）、福岡県神社庁参事望月司郎氏らの立会いの下、御本殿・第二、三宮の御鍵、実印・宮司印等一切の印鑑、財産目録等の引き渡しが厳密な確認作業のもと行なわれ、西高辻庁長が遺漏なき事を示す書類に印を押され、滞り無く引き継ぎが行われた。

神島前宮司におかれては、この困難な時代の中で当大社の護持に深甚されると共に福岡県神社庁副庁長としても斯界発展に寄与される事多大であられた。今回久しぶりに大社へお越し

頂き御健勝なお姿を拝見し親しくお話ができ、一同喜びを囁めつつも和やかな雰囲気の中、引継ぎは進められた。

高向宮司任命の辞令は七月一日付で神社本庁より発令され、新聞各紙でも新しい宮司として紹介されているが、今回の引継式を終え暗れて新宮司が誕生した。

地元の氏子の皆様、崇敬各位へのお披露目は、地元責任役員の皆様の発起により、九月十四日に玄海ロイヤルホテルで予定されている。



宗像大社御神酒醸造元
勝屋酒造合名会社

社長 山本 博次
福岡県宗像市赤間4丁目1-10
TEL(0940)32-3010 <http://www.katsuyashuzo.com>



地球に優しいひとときを...

Genkai Group

玄海グループ

〒811-3502 福岡県宗像市江口978-52
本社 TEL 0940-62-0653 FAX 0940-62-1565
URL <http://www.genkai-g.co.jp>

(有)玄海環境サービス (宗像市.許可業)

- 一般廃棄物収集・運搬
- 浄化槽の維持管理

玄海クリーン(有) (宗像市.委託許可業)

- 一般・産業廃棄物収集・運搬・処理

夏越の大祓式

梅雨明けせず天候が心配された七月三十一日午後五時より、夏越の大祓式が神門前にて古儀に則り厳肅に執り行われた。

大祓式は、奈良時代の昔より神祇官の命にて、国家的神事として

行われてきた儀式であり、由縁は、猛暑を越し、災厄除を祈り、無事に秋の移りを迎えられるようにとの事である。今日では旧暦の六月と十二月の晦日に宮中・神宮を始め全国の神社で行われている。当社

の夏越大祓は新暦、ひと月遅れの七月の晦日に夏越祭と併せて行っている。

当日は数日前の集中豪雨による被害で各家々大変な中、早朝より田島地区総代・協力会の皆様に御奉仕いただき、大社近くの堤で茅取り作業が行われ大量の茅が刈取られた。

この茅を神社境内に運び瑞々しい茅ばかりに選別、それを一定の長さ・量に揃え、直径五メートルにも及ぶ青々とした見事な大茅輪が奉製され、御本殿前の神

門に備え付けられた。古来、この茅輪を三度潜れば、邪気・罪穢れ・災難を祓い去り、暑気にもめげず健やかな生活を送る事が出来ると謂われている。古くは、小さい茅輪を、腰や首にかけて疫病除けとしていたようである。

午後五時、例年のような酷暑ではなく、太陽は雲に覆われ吹き抜ける風に涼も感じられる陽気の中、全国から寄せられた紅白の人数が茅輪の前に供えられ、官司以下神職、巫女、氏子崇敬者等約三〇〇名が参列し神事が開始された。



宗像建設協力会

事務局 〒811-3217 福津市中央5丁目1-20
TEL (0940)42-0323

株式会社 **井上建設**

〒811-3217
福津市中央5丁目1-20
TEL 〇九四〇・四二・〇三二三
FAX 〇九四〇・四二・〇三二七
井上 重信

株式会社 **桜井建設**

〒811-3217
福津市中央2丁目1-9
TEL 〇九四〇・四三・七八九五
FAX 〇九四〇・四三・一五二六
櫻井 良行

株式会社 **篠崎建設**

〒811-3205
福津市内殿一〇二・九
TEL 〇九四〇・四二・〇六七七
FAX 〇九四〇・四二・〇六七五
篠崎 清

株式会社 **田畑建設**

〒811-3219
福津市西福岡三・一五・一〇
TEL 〇九四〇・四二・〇五一一
FAX 〇九四〇・四二・五二八五
田畑 博規

株式会社 **日新建設**

〒811-3431
宗像市田熊四丁目一・三・六
TEL 〇九四〇・三六・二二三一
FAX 〇九四〇・三六・四七九八
長尾 榮次

株式会社 **松崎組**

福岡市中央区荒戸一丁目二・一四
TEL 〇九二七・五二・一三六九二
〒811-3335
福津市宮司浜三・二七・一
TEL 〇九四〇・五二・一一三三〇
FAX 〇九四〇・五二・一一三三〇
松崎 芳勝

株式会社 **松本組建設**

〒811-3350
宗像市神湊一〇二・〇
TEL 〇九四〇・六二・〇〇一六
FAX 〇九四〇・六二・〇〇一六
松本 真誠



葦津禰宜が「大祓詞」を宣読した後、参列者各々「切麻」で己を祓い、「祓物」に息を吹きかけて切裂き、半年間の罪・穢を祓った。

続いて、宮司以下参列者全員で茅輪を左に廻り

みなつきの夏越の祓へする人は千歳の命延ぶといふなり

次に茅輪を右に廻り

思ふこと皆つきねてと麻の葉を切りに切りても祓えつるかな



祭典後、お札・神酒を受ける参列の管様

さらに茅輪を左に廻り

宮川の清き流れに覗せば折れることの叶わぬはなし

と古歌を奉唱しながら三度潜り、本殿へと参進した。

引き続き本殿にて夏越祭が斎行され、国家・皇室の安泰と繁栄、氏子崇敬者と全国から人形を寄せられた方々の無病息災・家内安全を祈念する祝詞が宮司により奏上され、巫女による神楽「豊栄舞」を奉奏し、夏越祭は滞りなく終了した。



茅の輪をくぐる参列の管様



宗像タクシー協会

〒811-4185 宗像市赤間駅前2丁目3番14号
連絡先 TEL(0940)35-1111

みなとタクシー株式会社(会長)

代表取締役 古野 浩

TEL 〇九四〇・三三・一三三一

新星交通有限公司

代表取締役 森 正彦

TEL 〇九四〇・三六・二一三八

宗像西鉄タクシー株式会社

代表取締役 久家日佐夫

TEL 〇九四〇・三二・四一三一

宗像グリーンタクシー有限公司

代表取締役 藤瀬 政敏

TEL 〇九四〇・三三・三三〇三

宗像平和タクシー株式会社

代表取締役 塩川 浩一

TEL 〇九四〇・四二・〇〇四〇

福栄タクシー有限公司

代表取締役 保井 享

TEL 〇九四〇・四二・〇三三七

宗像交通有限公司

代表取締役 塩川 浩一

TEL 〇九四〇・五二・〇〇一五

第二回 世界遺産推進会議開催

麻生知事、沖ノ島を視察。それに先立ち第一回目の専門者会議開催

宗像市役所 世界遺産登録推進室



カメラアホールでの会議

はじめに

今年、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」がユネスコ世界遺産暫定リストに記載されたことから、世界遺産の登録に向けた本格的な活動がはじまりました。その中で世界遺産登録推進のための推進会議が本年一月二十四日に発足し、その下部組織として学術的な課題を解決するための専門家会議、また、外部からアドバイスをいただくための顧問をおいて組織されました。

第一回専門家会議

一月の第一回推進会議で設置が承認された専門家会議は、西谷正氏(九州歴史資料館館長)を委員長とし、五名の専門委員によって、学術的な課題を解決していきます。具体的には、コンセプトの検討や構成資産の選定などを行い、

ユネスコ世界遺産委員会に提出する推薦書の準備、枠組の決定を行います。その第一回目の専門家会議が六月十七日に開催され、午前中は現時点での構成資産(沖ノ島を除く)と新たな構成資産候補(田熊石畑遺跡)を視察し、午後からは福津市のカメラアホールにて会議を行いました。そのなかで、資産名称をわかりやすい名称に変更することや構成資産の再検討を行うこと、海外の評価をいただくために国際会議などを開催することなどが議論されました。

第二回推進会議

七月十八日、福津市のカメラアホールにて第二回推進会議が開催され、午後から沖ノ島の現地視察が行われました。

会議の中では、平成二十年の活動報告として、一月十日に行いました福岡県知事の中津宮・辺津宮・津屋崎古墳群の視察、二月二十八日に漫画家里中満智子氏をお招きして開催した暫定リスト記載記念シンポジウム、赤間駅・福岡



挨拶をされる麻生知事

駅・吉塚駅における横断幕の設置、リーフレットやポスターの作成などの報告を行いました。また、平成二十一年度の事業計画案として専門家会議の開催や国際シンポジウム、DVDやパンフレットの作成を行うことを報告し、その取支予算案が決定されました。最後に委員からは女人禁制についてや、本遺産の価値はどこにあるのかなどの質問が出されました。



午後は、福岡漁港へ移動し、知事を含め総勢六十九名の関係者が沖ノ島を視察しました。天気はよかったです。波が高く、ほとんどの方が船酔いをされ航海の大変さを実感されたようです。沖ノ島到着後、早速、禊を行い沖津宮へ

参拝し、祭典の後、高向宮司や事務局から沖ノ島の説明を行いました。

最後に

今回知事は、初の沖ノ島渡島でしたが、常々知事は、世界遺産登録活動は観光のために

行うものではなく、このような貴重な遺産を子々孫々まで残し伝えていくことであるとおっしゃっております。世界遺産の登録は、年々厳しさを増しており、本遺産の推薦書提出はかなりの年数を擁すると考えています。今年はそのスタートの年、今後は、世界に認められる遺産としてより多くの人にこの貴重な遺産の価値を理解していただくための活動を促進します。



沖ノ島で説明をする高向宮司



左から谷井宗像市長、知事、小島福津市長

宗像の漁家と農家の手作りの味道の駅むなかたレストラン



おふろ食堂
はまゆう

TEL (0940) 62-2821
店休日
毎月第4月曜・盆・年末年始
営業時間
午前11時～午後4時





第五十四回 中津宮七夕揮毫会

子供達約一七〇名参加の下、大島・中津宮で開催

七月二十七日、筑前大島の中津宮で七夕揮毫会が開催され、県内各地より約一七〇名の子供達が島の一日を満喫した。

この七夕揮毫会は毎年八月七日に中津宮で斎行される「七夕祭」に併せ、書道教育の振興を目的に昭和三十一年に始まり、今年で第五



十四回目を迎える宗像大社の神賑行事で最も歴史ある大会である。

前日迄の九州地方を襲った集中豪雨により交通機関に若干影響がでたものの、当日は雨にあうことなく、午後からは晴れ間も見えた。

える恵まれた天候となった。揮毫会場の大島小・中学校では、子供達が日々の練習の成果を発揮しようと、限られた時間の中、筆先に神経を集中させ各課題に挑んだ。

正午前には全作品が中津宮に提出され神前に奉納、子供達の学業成就、健康を祈念する奉告祭を斎行した後、審査員である福岡書道会の先生方により厳正な審査が行なわれた。

その間、緊張から開放された子供達は、沖・中両宮奉賛会の奉仕による恒例の「サザエ拾い」や海水浴を楽しみ、島でしか味わうことのできない大島の大自然を満喫した。

午後三時には審査が終わり、境内の回廊に入選作品を展示し、中津宮本殿前で表彰式が行なわれた。葦津禰宜から入賞者に賞状とトロフィーが授与され、午後四時には一同大島の思い出を胸に家路についた。

今年の七夕揮毫会も、大島島民をはじめ関係各位の皆様のご協力により、無事開催できましたこと心より御礼申し上げます。



創業嘉永三年(1850年)
伝統に支えられた宗像神湊の味。
ナカマル醤油醸造元
宗像市神湊1118
TEL 0940-62-0003 FAX 0940-62-0353



暮らしの夢を大きくひらく **城山家具**
宗像市三郎丸(旧国道3号線・三郎丸バス停前)
☎0940-33-5538(代表) FAX 0940-33-6351
http://www.shiroyamakagu.jp



の専門 **上田清商店**
〒811-3304
福岡県福津市津屋崎4丁目16-6
Tel 0940-52-0148 Fax 0940-52-5488

宗像農業協同組合
本店 代表理事組合長 寺島 俊基
宗像市東郷4丁目3番1号 TEL 0940-36-4110
支店 長 田中 政人
田島支店 宗像市深田75-1 TEL 0940-62-1515



宗像大社御神酒
合資会社 **伊豆本店**
代表者 伊豆善也
福岡県宗像市武丸1060
TEL 0940-32-3001 FAX 0940-33-0512

印刷のことならお気軽にご一報ください
名刺・封筒・ハガキ **中川印刷** 印刷全般
チラシ・製本 etc
福岡県福津市津屋崎4丁目11-27 TEL 0940-52-0044 FAX 52-0414

「第五十四回 中津宮七夕揮毫会」
各受賞者は右記の通り

福岡県知事賞	井上 歌奈	福岡雙葉中学校 中学3年
福岡県知事賞	鶴 侑希	自由ヶ丘南小学校 小学4年
福岡県議長賞	萱野 優生	城山中学校 中学2年
福岡県議長賞	本松 尚子	津屋崎小学校 小学2年
福岡県教育委員会賞	大橋奈菜子	大川東中学校 中学1年
福岡県教育委員会賞	馬場 礼悟	城内小学校 小学5年
宗像大社宮司賞	楢崎みどり	福岡雙葉中学校 中学3年
宗像大社宮司賞	福山 朱凜	赤間小学校 小学3年
宗像市長賞	川崎 千尋	誓固中学校 中学2年
宗像市長賞	白坂奈緒子	津屋崎小学校 小学6年
福津市長賞	石田 航	板付小学校 中学1年

福津市長賞	江藤菜津美	舞の里小学校 小学1年
宗像市議長賞	阿部 悠平	河東中学校 中学1年
宗像市議長賞	赤星 広子	赤間小学校 小学6年
福津市議長賞	永野 麻衣	城山中学校 中学2年
福津市議長賞	上妻 由華	津屋崎小学校 小学5年
宗像市教育委員会賞	林田 卓丸	日の里中学校 中学3年
宗像市教育委員会賞	萱野 未於	赤間小学校 小学4年
福津市教育委員会賞	広田 真桜	大島保育園 幼年
宗像観光協会賞	城戸 美穂	上西郷小学校 小学3年
福津市観光協会賞	梶原 玲夏	津屋崎小学校 小学2年

柗石賞9名、福岡書道会賞9名、
尚文堂賞9名、ヒロカネ賞15名

宗像大社 秋季大祭 (田島放生会) のご案内

宗像大社秋季大祭(田島放生会) 日程

10月1日(木)	海上神幸 (みあれ祭)	9:30	大島港出港
		10:30	神湊港入港
	一日祭 (入御祭)	11:40	於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉奏
10月2日(金)	流鏝馬神事	8:00	於=神門前 参道
	二日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁舞 奉奏
10月3日(土)	三日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉奏
	高宮秋季大祭 第二宮・第三宮 秋季大祭 宗像護国神社 秋季大祭		三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行 (11:40頃を予定)
	献茶祭	14:00	於=辺津宮 本殿
	高宮神奈備祭	18:00	於=辺津宮 高宮祭場 悠久舞 奉奏

当大社最大の神事、秋季大祭を左記日程で斎行致します。
皆様の御参拝を心よりお待ちしております。



お問い合わせ先 宗像大社 社務所 (0940)62-1311(代)

宗像・玄海の観光物産品卸

田 花田食品株式会社

代表取締役 花田 洋

宗像市田熊6丁目3番27号 TEL 0940-36-5533

出光興産株式会社販売店
東京海上日動火災保険(株)代理店

吉井商事株式会社

代表取締役 吉井 英海

本社 宗像市深田67-7
TEL 0940-62-0004 FAX 0940-62-3343

創業大正七年 鮮魚・海産物

やまし

福岡県宗像市神湊1141
TEL 0940-62-0006(代)
FAX 0940-62-2143

ファミリーストア 岡山

岡山 秀雄

福岡県宗像市神湊1000
TEL 0940-62-0134
FAX 0940-62-2914

遠藤クリーニング

代表 柴村 勲

〒811-3501 宗像市神湊635
Tel 0940-62-0217

食料品・青果・たばこ

田中商店

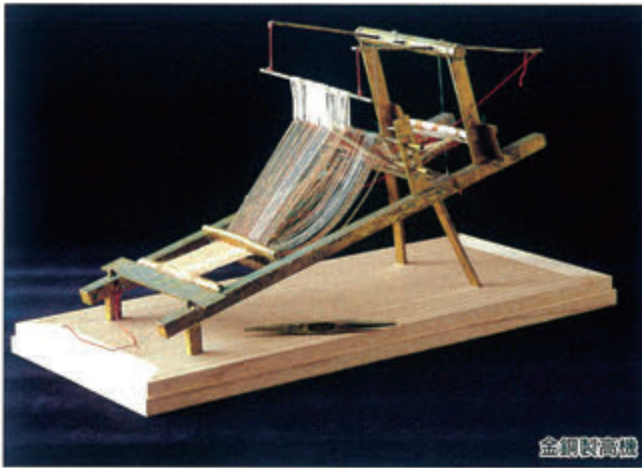
福岡県宗像市神湊1052
TEL・FAX 0940-62-0122

第六十二回 式年遷宮記念特別展

「伊勢神宮と神々の美術展」へ沖ノ島神宝を出陳

七月十四日に東京国立博物館で第六十二回式年遷宮記念特別展「伊勢神宮と神々の美術展」(〜九月六日まで)が開幕した。当大社からも沖ノ島出土の神宝が出陳されており拝観する機会に恵まれたが、平日にも関わらず予想以上の見学者の多さに驚いた。

式年遷宮とは二十年に一度、御社殿や御装束、御神宝などを全てつくり替えて御神体を新宮へ遷す



金銅製高機

伊勢神宮の重要な祭儀である。開始は今から千三百年前の持統天皇の御代にさかのぼり、平成二十五年で第六十二回を迎える。

その記念となる本展は同館と大阪歴史博物館、(社)霞会館、産経新聞社が主催、神宮司庁が特別協力、神社本庁をはじめ各県神社庁などが協力し、太古から続く神宮の信仰と歴史、式年遷宮の様子、神宝にみえる日本の美と技の継承などを紹介するものである。

今回大社が出陳した神宝は金銅高機、金銅雛形五弦琴、祭祀用土器、金属製雛形紡織具(いずれも沖ノ島祭祀遺跡出土)で、中世の式年遷宮で



人形のある器台と土師器壺



金銅雛形五弦琴

大阪歴史博物館

大阪市中央区大手前4丁目1-32
☎06-6946-5728

特集展示

「大阪の伊勢信仰と
おかげまいり」
9月2日～11月9日まで

特別展

「第62回式年遷宮記念
伊勢神宮と神々の美術」
9月19日～11月9日まで

調進された古神宝との共通性をもつ重要作品として展示されている。ほかに、式年遷宮の起源や具体的様子を記す「日本書紀」(天理大学本)などの古文書、熊野速玉大社など各社の古神宝や御神像、昭和の御代に調進された技術伝承のため神宮に保管される御装束や御神宝なども展示。遷宮関係の諸祭祀が始まり準備が着々と進んでいる中、神道の美術とその精華は人々にどのような響いていくのが期待される。

尚、本展は終了後、九月十九日から大阪歴史博物館でも開催される。伊勢に近く「おかげまいり」に関する資料では質・量ともに全国屈指を誇る同館では、特別展に先立つ九月二日より、「大阪の伊勢信仰とおかげまいり」と題した特集展示も開催される。詳細は左記にお問い合わせ下さい。

玄海ホテル旅館組合

玄海国定公園の中心
一風光明輝、生魚料理、宗像大社となり



魚屋本店	魚屋別館	玄海旅館	高嘉旅館	はなわらび	松風荘	みなと荘	国民宿舎ひびき	玄海ロイヤルホテル	神湊スカイホテル
☎ 六二一三三三	☎ 六二一三三五	☎ 六二一〇〇一	☎ 六二一一二二	☎ 六二一一五六	☎ 六二一〇二二	☎ 六二一二二五	☎ 六二一一二八	☎ 六二一四一一	☎ 六二一三三〇

(続)

決の寄物

239

いしただし



「堅い岩石である。いやあ、この土地を選んだって事はすごいことだと思っ、びつくりしました。ノミの焼きが甘いとね、一分で捲れちって使えない物にならない。そのくらい、堅い岩石で、そういうところにまあ、宮城からとにかく大本営をみんな移そうという計画を立てられたと思うのだけれども、まあすごいよ」(掘削をした人の話)である。壕内を

歩いたら転落していた岩石片を記念に三個拾ってきた。灰色の堅い石で、叩いても簡単に割れるものではない。ここを選んだ理由はよく分かっていないが「岩盤が強く強力な爆弾に耐えられる。山に囲まれて自然の要害のような地形になっている。水の便もいい。帝都東京に近い」という人も

いる。掘削は一日も休みなしで、三交替制、一の方は朝の七時から午後三時、二の方は午後の三時から夜の十一時、三の方は夜の十一時から朝の七時までであった。壕内は襷やパンツ一枚だったという。昭和二十年四月〜五月には人員を急増し一日、一万人が作業にあたり、朝鮮からの強制労働者も六千人ほどいたという。

昭和二十年一月には決戦非常措置要綱を決定、戦局は厳しく二月にはフィリピン、マ



壕入口に建つ、日韓の慰霊碑



地下壕から拾ってきた岩片

ニラで戦闘、三月硫黄島守備隊全滅、東京大空襲、四月米軍沖繩に上陸、同月大和出撃、(五月ドイツ敗北)、掘削に大量の人員を投入して完成を急いだ。

「工事名は大本営でなく、松代倉庫(群)新設工事で、イ地区、象山の地下に東西二十本の本坑、五本の連絡坑を掘り、ここに政府関係一万人を収容。ロ地区象山南東(のろし(舞鶴山))の一部通称白鳥山地下に三〜五本の本坑、六本の連絡坑を設け、ここに宮内省、大本営関係者二千人を収容する。ハ地区象山の東「皆神山」の地下は二本の本坑を設け、ここを皇族方居住地にする。他に、松代町の妻女山に一般政府機関を含む通信施設、舞鶴山の西の小さな山、弘法山の山腹に三種の神器を祭る「賢所」の位置を定め、掘削要員を「純粹な日本人」、純粹とは大人ではなく少年、未婚の男性、無垢の青年で



工事の方法



地下壕平面

考えていたようである。松代の大本営地下壕跡に入れば、色々な事が過ぎる。(この稿をまとめるにあたり、松代の長野俊英高校郷土研究班が二十二年間の聞き取りの資料を参考とした。)

「トンネル学校生徒」をあてたという。それぞれの地下壕の断面は施設の内容によって若干の相違があるものの、横幅約四割、高さ三割、断面積は約十二平方メートルであった。軍部は「本土決戦」を竹槍決戦として、老若男女すべて「一億総玉碎」の狂気を真剣に

第五七七回 宗像大社歌会詠草

大野展男選毎月25日メロ



宗像市 土 穴 山本 静子
 ラッキョウに紫蘇にんにくと梅干は吾の常備食それぞれ旨し
 評 人生の達人ならではの好物であり一首である。

福津市 若木台 山崎 公俊
 「不許輩酒入山門」の側面に「元禄十丁丑年」とあり
 評 事実のみを提示し力のある一首。酒好きだからこそ
 目に付いた碑である。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
 嫁ぎ来て先づは男に教はりき睦の草刈り 明日も炎暑か
 評 明日の炎暑を思い、過去の生々しいつらさを回顧す
 る一首、一字空けの効果も見すこされない。

福津市 中央 池浦千鶴子
 菖蒲咲く池の傍にて子の勤むスタバのコーヒー冷えしを開ける
 評 子が勤務先のコーヒーともなれば至福一入菖蒲見物である。

うきは市 浮羽町 向 則正
 庭に咲く花など持ちて病室に慌しくも通ひ来る妻
 評 家事に見舞いと懸命な妻に対する男の感謝の気持ち
 が「慌しくも」である。

福津市 若木台 野間 精一
 わがまちの特産の黄の西瓜食はせてやりたし海老名の孫らに
 評 県外出荷を主とし地元でもめつたに手に入らない上西
 郷の黄西瓜である。三句「西瓜なり」とし定型にしたい。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 焼夷弾無数の火の玉わがまわりに今も忘れぬ空襲の日を
 評 「焼夷弾火の玉となりわがまわりに無数に落ちき今
 も忘れぬ」とすればすつきりとなる。

宗像市 田 久 巻 桔梗
 いつしらの空のいろ失せ高宮をはつかに文明の火が照らしそむ
 評 文明をいかに解釈するか、危うい語彙である。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
 遠雷はまるで太鼓を打つようにひびきをあげぬ玄海の沖
 評 「遠雷はまるで太鼓を打つことく玄海沖にひびきをあ
 げる」の方が臨場感が出ると思うが、いかがですか。

宗像市 田 野 森 甲子
 里の田の稲はすくすく育ちるて父亡き後も元氣なるらし
 評 注書きを参考に「下旬を「父亡きあとを期元氣らし」と
 したらと思いました。

宗像市 田 久 井上 光
 雨しぶき雷鳴とどろく梅雨空に餌を探すか子燕は飛ぶ
 評 子燕をつばくらめとした方がリアル感があるのでは。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
 雨止みて薊の花の咲く原に白き蝶々もつれつつ飛ぶ
 評 うまい歌だが、素材としては古風と思う。

宗像市 自由ヶ丘 一木 照代
 叔母の家一輪指しに菖蒲生けなにやらうれし家族集いて
 評 ほほえましい一首。

宗像市 日の里 大和美由紀
 枝ひろげ合歓の花咲く清流に昔のままの吊橋見ゆる
 評 こころしづまる景であり一首である。

福岡市 南区 井田有久衣
 孫よりの宅急便にてお中元つつみを開ければ菓子詰合せ
 評 よろこびのひととき。初句は「孫からの」がいい。

福岡市 南区 加野シノブ
 驟雨くる庭一面は水びたし通路は小川の如くなりし
 評 初句は「驟雨きて」とし結句は「小川のごとくになり
 ぬ」と完結にすべきである。

選者詠
 青葉寒と言ひてストロブ燃やすなど老のくらしのつつましくはなし
 評 わが持ちあし名刺より薄き後期高齢者保険証とどく
 ほうほうと山鳩しきりに啼きてをり青葉寒する昼をどこかで

第五二二回 俳句作品集

福津市 勝浦 高山 睦子
 若葉風九州起点の駅に下り
 宗像市 平井 占部 詩子
 血をさらさらけ清流水のしほりたて
 宗像市 東郷 田中 憲象
 菊姫の悲哀の歴史風薫る
 宗像市 日の里 花田いつ枝
 空中の膨らむ気配大夕立

9月祭事暦

毎月1-15日	月次祭	午前10時~
	高宮祭 第三宮祭 国神社祭 (1日)	
	宗像二尊社祭 宗像三尊社祭 宗像四尊社祭 (1日)	
	宗像五尊社祭 宗像六尊社祭 宗像七尊社祭 (15日)	
23日	皇霊殿遷座式	午前10時~
31日	秋季大祭宵宮祭	
	総社地主祭	午後5時~
	宵宮祭	午後6時~

編集後記

この欄では素朴な心掛けてきました。その反面、若輩者には普及しにくいのが戦争の話題です。八月十五日、今年も東京、日本武道館で六十回目を全国戦没者追悼式が開かれました。半世紀以上が経過し、今年も参列者の七割が戦没者の子供、孫となつていようです。追悼の辞を述べられた佐賀県の大十六歳の遺族代表の方は、二歳の時に父を三十二歳で亡くされたそうです。小生は現在三十二歳。九月三日の男児がおります。もし異国の地で戦死、遺骨もなしと考へるといたたたまれませんか。益明けには郷里に帰省させていただきます。郵紙今月号「横浜の奇物でも触れられております」天本益助、渡辺謙さんの演じた栗林中将の眠るお墓を訪ねて「よ」と思っています。(塚)